

平成22年度石川県社会教育委員の会議における協議のまとめ

1 協議題 「社会教育に関する具体的取り組みについて」

2 会議の経過

- | | |
|---------------------|--|
| 第1回 平成22年10月 4日 (月) | ・いじめ・非行防止・不登校対策の充実について |
| 第2回 平成22年11月24日 (水) | ・家庭・地域の教育力向上について
・児童・生徒の安全確保対策の推進について |
| 第3回 平成23年 1月13日 (木) | ・生涯学習環境等の充実について |
| 第4回 平成23年 2月21日 (月) | <協議のまとめ> |

3 主な意見

(1) 第1回 いじめ・非行防止・不登校対策の充実について

- ① 携帯電話については、ネットトラブルを防ぐことはもちろん必要だが、携帯電話に費やしている無駄な時間にも目を向けなければならない。そのためには、「部屋に持ち込まないこと」というような家庭でのルール作りも必要である。
- ② メールがコミュニケーション手段の一つとなっているが、生（なま）の声による会話を交わす中で人間関係を円滑に進めていくことが大事である。
- ③ 親が参観日に教室で携帯電話を操作している現状がある。携帯電話の取扱いは、まず大人が自覚し、正しい使い方を子どもたちに伝えていく必要がある。
- ④ 地域の大人が子どもたちと話し合うことを通して「心の契約」を結ぶという信頼関係を築き上げ、様々な問題に対処できるのではないか。

(2) 第2回 家庭・地域の教育力向上、児童・生徒の安全確保対策の推進について

- ① 家庭教育カウンセリング事業は、相談件数の多少に関わらず継続すべき事業である。また、場所や時間などに利用しやすい工夫が求められる。
- ② 「親子の手紙」は感動作も多く、また、親と子のコミュニケーションの機会ともなっておりとてもよい事業である。応募者が増え続けており、審査が大変だとは思いますが是非続けて欲しい。
- ③ 放課後子ども教室あるいはそれ以外の日の児童の安全な活動場所として、児童館の充実が考えられる。児童館で毎日活動ができれば、放課後児童クラブとの連携も進むのではないか。
- ④ グッドマナーキャンペーンの効果と思われるが、自転車のマナーや挨拶については、10年前と比べると良くなっているように感じる。

(3) 第3回 生涯学習環境等の充実について（「いしかわ子ども自然学校」の拡充について）

- ① 集団で入浴したり、宿泊するという体験が社会性を育てる。宿泊を伴ったプログラムが多いことは貴重である。
- ② 体験させるというプログラムが多いが、子どもたちが自然の中で自分たちで作りに上げていく活動も意義がある。
- ③ まず参加してもらうことが大切であり、そのために保護者に対する一層の広報が必要である。
- ④ 自然学校の目的の中に、ふるさとを大切に思う心、自然を守る心を育むという項目を加えるべきである。
- ⑤ ファミリーチャレンジの参加率が低い原因を調査し、改善を図る必要がある。

4 意見のまとめ

全体としては、現在実施されている事業については概ね効果があると思われる。

- ・携帯電話に関しては、大人が手本を示しながら子どもたちを指導していくとともに、「いしかわ子ども総合条例」の趣旨を踏まえ、保護者等に対する啓発を継続して行っていく必要がある。
- ・「親子の手紙」をはじめとする事業には効果があるが、家庭教育に関するカウンセリングの実施や児童館の活用などについては、更なる工夫が必要である。
- ・「いしかわ子ども自然学校」については、非常に意義深い活動であり、ファミリーチャレンジをはじめとしてより一層参加率を高める工夫が求められる。